



皆さまの声が
活動の羅針盤

望月 こうとく

もちづき

立憲民主党

横浜市議員(都筑区)

2022年秋号

2022年9月15日発行

通信

望月こうとく 政務活動事務所

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-24-17-201

TEL & FAX:045-532-9089 E-mail:info@khotoku.net

望月 高德

検索

<https://www.khotoku.net/profile/>



あらためて 望月の政治に対する思い

私が横浜市議会に市民のお支えを得て送り出していただけてから、11年半が過ぎました。議員になる前を含めると政治活動を始めて約24年。この間、地方選挙4度の落選と3度の当選を経験しました。

元々、政治に関わろうとした原点は学生時代。それは生活費や学費をいかに工面し、学生生活を全うするか思い悩んだ時期でもありました。大学卒業時に民間会社の社員となりましたが、「政治を変えていきたい」との強い思いから早期に退社。学習塾業などで生計を立てながら、政治家秘書経験があったり、身内に政治関係者がいたわけでも、特定団体の支援があったわけでもありませんでしたが、30代で初めて地方選挙に挑戦。初当選まで約12年を要しました。

政治は、もちろん全ての人たちのものです。政治への近さで、一部の人だけが不当に利益を得ていいものではありません。そして、その役目は、**何よりも全ての市民(国民)の生命と財産を守り、誰もが安心して暮らしていける社会を作ること**です。だからこそまずは、**社会全体で手を差し伸べるべき人に、目配りと支援を届けられる政治が必要**です。同時に、**真っ当に暮らす人たちの努力が報われる社会を作ることが、政治の責任**です。

少子高齢化が進む中、政治が未来への展望や希望を示せていません。しかし公正なルールの下、各自の選択を尊重し創意工夫と努力が生かされる社会を目指せば(もちろん他者に対する寛容さや支え合いの精神を忘れないこと)、思いのほか良い社会が待っていると思います。

学生時代に政治を変えたいとの思いを抱いて以来、紆余曲折いろいろありましたが、ここまでやってこられたのは、社会のおかげ。そして地縁、血縁などなくても望月に期待し、議会に送り出していただいた市民の皆さまのおかげです。その市民に報い社会に恩返しできるよう、市民とともに、ぶれずに前に進んでいきます。

政治への市民の信頼を大切に、ビジョンを持って 市民とともに未来を切り拓く!

政治は、関心があるなしにかかわらず、誰も無関係ではられません。

政治は、皆さまからお預かりした大切なお金(税金)をいかに使い生かしていくか決める場。まさに市民の生活に直結。

だからこそ、望月が議員として重視してきたことは、

- 市民との信頼関係を大切に、常に緊張感と責任をもって議員活動を進める。
- 市民のためにいま何が必要か、これから何が必要になるのか、そのためにいま何をすべきか、とことん突きつめ未来を見据えた横浜の都市経営の推進と都筑の街づくりのための事業実現。

PROFILE



もちづき こうとく

望月高德

プロフィール

1965年7月10日、静岡県富士市は富士山麓の兼業農家の8人兄弟姉妹の末っ子として生まれる。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。大学卒業時に(株)野村総合研究所社員となるも、政治のあり方への疑問や政治を正す思い強く同社を早期退社。学習塾経営や専門学校講師などを務めながら、1999年より政治活動を開始。地方選挙5度目の挑戦で、2011年4月に横浜市議員に初当選。現在3期目。2022年9月時点で横浜在住34年目。

- ◆皆さまの声を“活動の羅針盤”として、既得権に縛られず市民に信頼される政治の確立を目指して活動中。
- ◆『市民の命と暮らしを守る』を第一に、今だけでなく将来世代に対しても責任ある財政運営の下、地域の安心・安全の向上と暮らしやすい街づくりのために全力投球!
- ◆政治信条『公正、共生、寛容』
- ◆政治を志した原点『学生時代の新聞奨学生経験』
- ◆好きな言葉『感謝!』



カジノIRの問題を 忘れない

誘致推進派の議員は、自らの選挙の際は、推進の立場を隠し市民の審判を仰ぐことなく誘致を進めました。これでは政治に対する信頼も生まれません。

望月は、この問題を2014年以來、「誘致に反対。市民に是非を問うべき」の立場で、区民に伝え議会でも

取り上げてきました。結果、**現市長の誕生で誘致撤回へ**。



「IRの是非を問う住民投票を求める市民の直接請求」の審議では、その市民の思いを会派を代表し代弁(2021年1月8日)。

重点施策

望月の考える重点施策や
具体項目を一部ご紹介

市民の生命や健康、安全に関わる施策最優先

コロナ対策

誰がいつ感染してもおかしくない状況。社会・経済活動を維持しながら、常に「**次の波に備える**」の心構えで従来の感染の波の経験を生かし、変異株の特質やリスクに応じた市としてできる対策を臨機応変に最大限準備。

特に必要な検査と必要な医療が提供される体制の確保。あわせて通常医療の回復。自宅療養時の支援や連絡体制で改善すべき点の改善。

コロナ感染防止策の一環として、市営地下鉄ブルーラインの窓開けや区役所の対面時のアクリル板の設置がされています。まだいずれの対策もなされていなかった時点で、**当時の交通局長や区役所幹部に対策実行を直接、働きかけました**。

すぐにできることは、すぐにやる!

減災・防災対策

大地震や本市に影響を与える火山噴火、風水害などの災害は、いつ発生してもおかしくありません。いざという時に市民の命や財産が守れるよう、**あらゆる面から本市の災害対策を拡充、底上げ**。

初当選以来、地震及び津波あるいは火山噴火そして風水害などの災害対策について、様々な角度から提言を行い、新設や拡充をさせてきました。

災害時医療の確保の視点で市内13拠点ある災害拠点病院の耐震性底上げや透析患者への災害時医療提体制の確保もその例。提言により**建替え計画が進み出したり(昭和大学藤が丘病院)、透析医療の確保計画が改善**。

またインフラ、特に本市の水道施設の耐震性の向上や降灰対策も求めてきています。前進はしていますが、更なる充実を求めていきます。

働く世代応援施策の拡充

小児医療費助成の充実 子育てしやすい本市であるために、小児医療費の

保護者負担の軽減は、必須。まずは中学3年生までの一部負担金や所得制限を撤廃させる。そして助成対象年齢の拡大も目指す。

当通信で、過去(2015年2月号や2019年2月号)に記載した通り、「小児医療費助成の充実」は子育てしやすい社会環境整備の一環として、本来国がやるべきことをやらないので、市に求めてきたことのひとつ。

議員になって以来これまで徐々に拡充されてきましたが

[10年前は小1まで]、更に**現状より拡充させます**。そしてこの助成にとどまらず、出産、育児、教育の各分野などで、働く世代が、子育てしやすい本市になるために改善すべきことを改善させる[子育て世代包括支援推進]。

あわせて子育て世代に限らず、働く世代が性別や年齢を問わず働きやすいと思える環境そのものを作るために、本市としてできることをやりつくす。

少子高齢化社会を見据えた街作り・施策展開

地域交通の確保

少子高齢化社会にあった街づくりや施策展開は、ますます重要。コンパクトな街づくり、地域交通の確保、介護・医療課題の改善、独居高齢者の見守りその他、取り組む課題はさまざま。

2019年2月の本会議で、地域交通確保の重要性に関する本市の認識を質問し、「地域交通は、生活に必要不可欠。誰もが移動しやすい地域交通を実現するために全市的に取り組む」旨の回答を得ましたが、**具体的に必要移動手段としての地域交通を確保することは、今後ますます重要**。

上記にとどまらず介護・医療の課題、独居高齢者の見守り、空き家対策や所有者不明土地解決、社会状況に合わせた街づくりルールの策定や建物・土地利用の誘導など、地域の様々な課題を順次改善させます。

都筑区選出議員として特に重点を置いて 当局に対応を求めていること

現在、当局に強く求めていることの一つは、都筑区が安全で安心かつ快適な街であり続けるために、『**街並みの維持管理手法などについて今後の整備の方針や計画を明らかにすること**』です。

区が誕生して約28年が経過。以前に比べ傷みが目立つ歩道(舗道)あるいは手入れが行き届かなくなっている道路や街路灯、街路樹等の附帯物が増えていると感じています。例えば、センター北駅芝生広場前の歩行者空間など[なお同所については、出来るだけ早期の修繕を求めています]。

今後さらに進む少子高齢化の中で、予算や人員が足りず、「なんだか寂れた住みづらい街になった」とするわけにはいきません。当局が、上記の方針や対応計画を策定し、住みやすい街を維持するよう求めています。

当通信をお読みくださった皆さま、ありがとうございます。この通信は、市政レポートに特化した「みんなの声の広場」とは別に、市政に限らず、望月の政治スタンスや考えを広くお伝えするため、不定期に作成しています。